

令和8（2026）年度 病害虫発生予察注意報 第2号

令和8（2026）年5月14日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

作物名 果樹類（なし・りんご・ぶどう・キウイフルーツ・もも・うめ等）

病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

1 発生予想 発生量 **多い**

2 発生地域 **県内全域**

3 注意報発表の根拠

- フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの総誘殺数（5月第1半旬～第2半旬）は、県内6地点のうち3地点で平年を上回った（表1）。また、誘殺数の増加時期は平年より早かった（図1）。
- 本年は、昨年と比較してチャバネアオカメムシの越冬量が多かったため（図2）、今後も越冬後世代の発生が多く推移することが予想される。
- 気象庁の1か月予報（5月7日発表）によると、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並となる見込みであるため、果樹カメムシ類の活動に適した気象条件が継続する可能性が高い。

4 防除対策

- 多目的防災網の設置園では、速やかに展張し、園全体を隙間無く被覆する（網の目合いは4mm以下が望ましい）。
- 有袋栽培では、早めの袋がけを徹底する。
- 果樹カメムシ類の飛来状況は地域やほ場によって異なるため、園地を定期的に巡回し、飛来状況の確認を徹底する。特に、山林に隣接する園地や過去に被害が多発した園地では、より注意深い観察が必要である。また、気温及び湿度の高い日は夜間の飛来量が多い傾向があるので注意する。
- 園地への飛来を確認した場合は速やかに薬剤散布を行う。なお、果樹カメムシ類は夜行性であるため、早朝や夕方の薬剤散布が効果的である。

※ 薬剤については、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)を参照。

5 防除対策上の留意点

- 合成ピレスロイド剤や有機リン剤は各種害虫の天敵類に影響を及ぼすことがあり、その結果、ハダニ類やカイガラムシ類が増加することがあるため、薬剤の使用後にはこれらの害虫の発生を定期的に確認する。
- 防除は夕方や早朝の実施が効果的であるが、薬剤散布時には、近隣への薬剤飛散（ドリフト）や騒音に注意する。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数（5月第1半旬～第2半旬）

場所	誘殺数		平年比（％） （本年値/平年値×100）
	本年値	平年値※	
那須烏山市	57	0	-
矢板市	6	12	50
芳賀町	206	139	148
宇都宮市瓦谷町	67	14	479
宇都宮市古賀志町	8	71	11
佐野市	3	35	9

※ 平年値は、過去12年の値から最高値・最低値の2年を除く10年間の平均値。

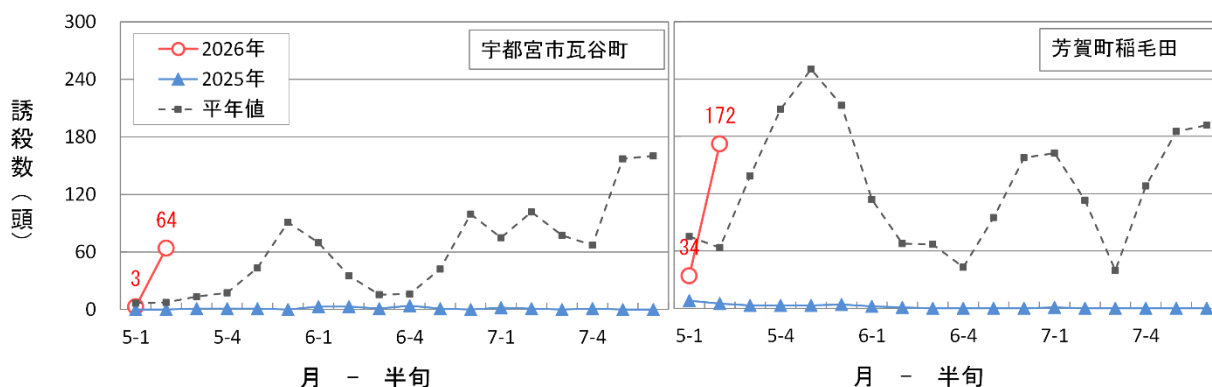


図1 誘殺数の多い地点のフェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

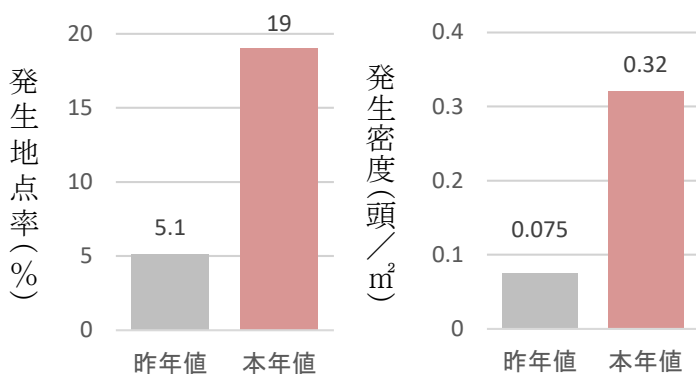


図2 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査結果
（県内102地点調査）

写真1 チャバネアオカメムシ成虫

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X@tochigi.nousei」、農業総合研究センターホームページ
[（https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html）](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html) でもご覧いただけます。

